

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第295号
平成24年3月22日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

「ま で い」 の 力

校 長 鈴 木 隆 志

福島県飯舘（いいたて）村は、福島市から東へ車で約1時間ほど、阿武隈山地北部に所在する人口6千人ほどの小さな農山村です。標高400m以上の高原にひらけた飯舘村は、豊かな山の自然と川の恵みに囲まれ、高原野菜・花き類の栽培などの農業、黒毛和牛の畜産業、産出する良質の白御影石の石材業等が有名な土地でしたが、この村が広く知られるようになったのは、福島第一原発事故によりホットスポットであることが判明したため、全域が計画的避難区域に指定されたことによります。

飯舘村の菅野典雄村長も、たびたびテレビや新聞に登場し、すっかり有名になってしまいました。8月に出版された彼の手記『美しい村に放射能が降った——飯舘村長・決断と覚悟の120日——』を読みました。全村避難を余儀なくされた飯舘村の、苦しい決断と覚悟が綴られていました。

飯舘村では大震災・原発事故の発生前から、村を挙げて「ま で い ライフ」に取り組んでいました。「ま で い」とは「真手」、つまり両手が揃った状態のことであり、この地方の方言で「手間隙を惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」「時間をかけて」「じっくりと」といった意味が込められています。飯舘村では村民同士がともに支え合いながら、楽しく、美しく、心安らかに歩んでいける暮らし方を目指していたのです。菅野村長は、原発事故の後も、それこそ「ま で い」に作り上げてきたこの村を壊すわけにはいかないと、2年で段階的に帰村する目標を掲げました。しかし、放射線被害に敏感な村民からは「自分の村を維持することを優先して、村民の安全を犠牲にしている。モルモットにするつもりか」と辛らつな批判が寄せられたそうです。菅野村長の真意は、村の復興もさることながら、村民一人一人の心の復興を目指すところにあります。村に戻ることを選択しない村民も含めて、両手で包み込むような「ま で い」の心を忘れずに、ともに生きていこうと呼びかけているのです。

「ま で い」の心、「ま で い」の力を信じて、飯舘村も飯舘村民も、いつの日か必ずや復興を遂げていくことでしょう。私たちは、その日が一日でも早く訪れるように、3月11日を忘れることなく、すべての被災地と被災者に応援を続けたいと思います。

光が丘第八小学校の平成23年度は、本日修了式を迎え、明日の卒業式を残すのみとなりました。今年度は、53名の6年生が巣立ちます。光八小では、学校・家庭・地域のみんなの力で光っ子たちを「手間隙を惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」「時間をかけて」「じっくりと」、育ててきました。まさに「ま で い」の教育です。今年度も一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

光八小は、これからも、一人一人を大切に、「笑顔かがやく光っ子 みんなで育てる光っ子」を目指していきます。あたりまえのことをあたりまえにやることが、学校としての使命であると考え、さらに努力を重ね、平成24年度も「ま で い」の教育活動を展開してまいります。今後とも御支援・御協力のほど、よろしくお願いいたします。

◆ 4月はじめの予定

- 4月5日(木) 入学式準備 新2年生と新6年生は登校 詳しくは学年便りで確認してください。
- 6日(金) 始業式、入学式 新2年生と新6年生以外は始業式終了後すぐに下校
- 9日(月) 集団登校(～12日)、給食始、保護者会(1年、2年、3年、わかば)
- 10日(火) 保護者会(4年、5年、6年)
- 11日(水) 保健関係書類提出、発育測定(5年、6年)
- 12日(木) 光っ子活動(光っ子班編成)、発育測定(3年、4年)、委員会活動
- 13日(金) 発育測定(1年、2年)、児童個人カード・引き取り人登録提出
- 16日(月) 対面式、ピンテープ・尿検査キット回収、1年給食始
- 17日(火) 発育測定(わかば)